

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	「かげろうのたん生日」からよむ生命の奇跡：イメージの時間性・空間性の獲得
Auther(s)	小林, 照子
Citation	児童の言語生態研究, 19 : 108 - 118
Issue Date	2018-10-27
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046627
Right	
Relation	



「かげろうのたん生日」からよむ生命の奇跡

——イメージの時間性・空間性の獲得——

小林 照子

1. はじめに

「終わりは始まりだということを感じよう」と、湯ヶ島小学校で六年生を担任していた亀山会員から、研究授業の依頼があった。伊豆市立湯ヶ島小学校は昭和の文豪「井上靖」の母校である。校内には「井上靖」の資料館があり、詩碑もある。詩碑には、「地球上で一番清らかな広場。」で始まる詩が刻まれている。

井上靖が愛した故里湯ヶ島で、今日まで続いてきた湯ヶ島小学校であるが、近隣の二校との統合が決まり、平成二十五年三月には、百三十六年の歴史に終止符を打つことになった。最後の年の最高学年として、様々な行事に参加してきた六年生は、卒業と同時に母校を失うことになる。常に未来に向かって進んでいる子ども達にとつては、母校が無くなるなんてことよりも、四月から始まる中学校生活

活への期待の方が大きいに違いない。しかしそこで、ただ時代の波に流されるのではなく、流れる時間の中で生きている自分を意識させたいと、亀山会員は考えたという。

「授業は、成長しつつある子ども達の、『今』をテーマにしなければいけません。」「授業はどんな時でも一期一会だと考えなさい。」という上原先生の言葉が浮んできた。湯ヶ島小学校が閉校になるという歴史上の瞬間を見届けること。百年以上脈々と続いてきた人々の想いを未来の方向につなげること。それは、閉校の年の六年生だからこそできる学びである。それを授業として学ばせたいという亀山会員の意向を受け止め、教材を探し授業を考えた。

2. 授業作りにあたって

昭和五十一年度版日本書籍小学国語4年上に『かげろうのたん生日』が掲載されている。

る。この物語を教材として、「構え」の授業を行うことにした。テーマは「生命の奇跡」である。

「かげろうのたん生日」は読者に読み聞かせる形式で話が進んでいく。水の中でかげろうがどのように生まれ死ぬのか、その繰り返しの中でかげろうの生態が明らかになっていく。しかし一般的な説明文と異なるのは、生命体としてのかげろうの姿を明解に説明する文章にはなっていない点である。生命体なのかどうかあまいまいな物体が、動き、変化する様子が、美しい文章で書かれている。現実か非現実かも定かではないまま、イメージネーションの発露として、かげろうの生態を追っているのである。

かげろうのたん生日

ビアンキ 作

内田莉莎子 訳

さあ、水の世界のお話をしてあげましょう。三つのきせきのお話ですよ。

でもこれは、おとぎ話とも、ほんとうのことともつかないお話なのです。しかたがありません。水の世界は、わたしたちの、地上の世界とは、まったく、ちがっているのですから。だから、水の世界のお話は、ほんとうの話でも、おとぎ話みたいなのです。

—つづく—

作者は、「ほんとうの話」であつても「おとぎ話」みたいと言っている。現実の生物の生態を説明しながら、水の世界では、時間空間が転換し、地上の世界とは異なる特殊世界となる（トランスフォーメーションが起きる）ことを根幹としているからであらう。

さらに、作者は三つのきせきを設定している。一つ目は、空から突然小さなあられのような、かげろうの卵が舞い降りること。二つ目は、水の中であげろうの幼虫が羽化する事と。三つ目は、生命が永遠に続くこと。そして作者は、「三つ目のきせき」こそ最も肝心なものであるとしている。しかし作者は、そ

のような奇跡の中にあつても、「悲しまなくていいんですよ。この世に喜びは、決してなくならないのです。」と言っている。なぜか。このお話が水の中のおとぎ話のようなものでありながら、実は「ほんとうのこと」すなわち生物の命の循環を語っているからである。

かげろうの永遠なる生と死のありようを、循環の連なりとして捉えた時に、今までとは異なった死生観が誕生する。すなわち、「いのち」は受け継がれていくもの、繰り返すもの、巡っていくものであり、その連関の中で個々の生命体が存在するということである。そういうった構えが子ども達にどこまで育っているのか、また、それをいかに獲得しようとしているのか見届けることを、授業テーマとした。

古来より日本人は相反する物事を対立的に捉えてこなかった。それらを地続きな一体化したものとして取り込みながら生きようとしてきた。そうした基本的な構えが、「挫折」「絶望」あるいは「死」に対して、「根本的に生き様を転換していくチャンス」という捉え方にもなっていた。

これまで各自が生活を通して抱いてきたイメージの世界が、何かをきっかけに裁断された時、これまでは違った次元での生き様を獲得して再出発すること。それらを繰り返しながら、あたかも螺旋階段をのぼっていくよ

うに力強く生きていける素地ともなれることを期待して、授業展開を設定した。

亀山学級の児童は、昨年八月にも本会の研究授業に参加している。昨年のテーマは「野原の声を聞く」だった。その授業で子ども達は、世代の違う人間同士でもイメージが共有できることに気付いた。十代の少年と八十代の老人。それぞれ生きてきた時代が違つても、その時間軸のずれを越えたイメージ世界があること。今見えている現実世界は、過去から脈々と流れ広がり続ける時間空間の延長線上にあること。イメージ世界の中では時空を越えて移動し、共鳴し合うことが可能だということを知った。子ども達には今回の授業を通して、さらにもう一步深く、命は受け継がれて繰り返されていくということを感じてほしいと願っている。

3. 子ども達の反応（授業記録より）

冬休み中であつたが、授業のために16名の児童が登校してくれた。「かげろうのたん生日」という題名はふせられたまま、物語の朗読を聞き、子ども達の心に残ったことを発表し合うという形で、授業を進めた。まずは冒頭から、一日の命を終えたかげろうが、川岸に、雪がふつたように落ちていたというところまで。一つ目の奇跡と二つ目の奇跡を聞いて

た子ども達は、次々に語ってくれた。

〈水の世界〉

亀山T 心に残ったところを発表してもらおうか。

ゆり 死んだところが綺麗？

りな かげろうが落ちて死んじゃったところ。

さちこ 吹雪がいい。

ゆり えー、私はりなさんとさちこさんと同じで、吹雪、あのー、かげろうが綺麗に踊っていたところ。

C さすが

C さすが

しょう えーっと、最初のところの、陸の世界と水の世界は違って、水の世界は、空気も水だし空も水だし。よかったです。

たける りなさんと近くのところ、かげろうが雪のように、あのー、死体が積もっているときに心に残った。

あや えーっと、ゆりさんと同じで、かげろうが楽しく綺麗に踊っているところ。わかなちゃんどうですか？

わかな えっ！あやさんとゆりさんと似てて、わたしは、かげろうが上へ下へ飛んでいるところが、あのー、心に残りました。ちなつさんどうぞ。

ちなつ えっと、かげろう？いや違う。毛む

くじやらのやつが、綺麗になったところが心に残りました。ななみさん。

ななみ えっと、二つあるんですけど、かげろうが綺麗に飛んでたところと、かげろうが雪のように死んだところです。じゃあ、ももちゃん。

C 死んじゃう。

ももか かげろうが綺麗に踊ってる。たかしさん。

たかし えっと、陸の空と海の空と表現の仕方っていうか、そういう感じのところ、違ふところがいいと思います。かずおさんかずお えっと、ちなつさんと同じで、毛むくじやらの小怪物がかげろうに変わっていくところ、心に残りました。

ひろき えっと、えー、僕は、魚、あれ、春になつて、魚が陸の世界で銀のうろこが輝いたところ。だいきさん。

だいき えっと、小怪物が、なんか上がったって、日の光を浴びたところ。ののさん。

のの えっと、かげろうの吹雪のところ、心に残りました。みどりさん。

みどり かげろうが雪のように積もって死んでいったところが心に残りました。

亀山T 他に心に残ったところはありませんか？

ゆり 毛むくじやら。

亀山T 毛むくじやらの何が入ったの？ちなつ 綺麗になったところ。

小林T 綺麗になった以外で、毛むくじやらが心に残った人はいない？

たかし たくさん積もったななみ 小っちゃいところ。

りな 六本足のやつ。

小林T 六本足は毛むくじやらだったよね。

口がない？

C 口がない

中川T 毛むくじやらも口がなかったわけ？

C かげろうが。

C かげろうが。

亀山T かげろうは口がないけど、毛むくじやらはどうだつて？

C 口がある！

C はいつくばつてた。

小林T 水の世界は空気も水だし空も水だしってところ、しょう君の心に残ったんだね。

かげろうが心に残った人が圧倒的に多かったね。

亀山T 死んだつていうところが心に残った人がいたけど、死んだつてどういうこと？

ななみ 力尽きた。

かずお 命が途切れた。

りな 天国へ旅立った。

小林T ひとりひとり言い方が違うね。

りな 魂が神様へと預けられた。

ひろき 生命が途切れた。

亀山T じゃあ、途切れるの反対ってなに？

ななみ え？生まれる？

亀山T 生まれるところが心に残った人がいない。

りな つながる！

亀山 つながる、生まれるのところが、出てないんですけど。終わりしか、死んだしかないんですけど。

二つ目の奇跡が心に残ったと語る子どもが圧倒的に多かった。それも、死に向かう命の乱舞をとらえ、「上へ下へ飛んでいる」「楽しく奇麗に飛んでいる」「吹雪（のように）奇麗に踊ってた」「雪のように死体が積もっている」と語ってくれた。子ども達がかげろうの死を、ただ死んだのではなく「雪のように死んだ」と語ったところに注目したい。「水の世界」のイマジネーションと「雪」に触発されたイマジネーションと「かげろうの乱舞」とが協力で働いたのだと考えられる。その美しさに奇跡を感じたのではないだろうか。

教師の「死んだってどういうこと。」という問いに対して、「命が途絶えた」と答えた子ども達と、「天国へ旅立った」「魂が神様へと預けられた」と答えた子ども達とは、死

のとらえ方が異なる点にも注目したい。

ここでは一つ目の奇跡を語る子が一人もいなかった。「細かい細かいあられ」というのは、かげろうの卵を比喻で表したものであるが、子ども達には、それがつかみ切れなかったようである。

《生命の連続》

亀山T こなんにもないんですけど。（板書の「生命が途切れた」の次を指して）この終わりしか、死んだしかないんですけど。

りな その続き言ってなかった。

小林T 言ってるよ。

C 三年かかって生まれた。

C 三年？四年だっけ？どっち？

亀山T もう少し、そこら辺で心に残ったことを言ってください。

C 三年、千日。

亀山T 三年、千日かかって何？

りな 生まれた？

亀山 かかって毛むくじらが生まれたの。

りな で、で、見つけた。

ひろき え？

ななみ 三年、千日経ったら

ひろき 出てきた。

ななみ 新しい虫が：毛むくじら。

りな かげろうが生まれた。

亀山T ねえねえねえ。毛むくじらとかけろうって別の生き物なの？

りな 一緒。だって皮剥いたら出てきたし。

亀山T 皮剥いたら出てきたの？

C （一同笑う。）

りな 生まれたーって。

わかな ただの毛むくじらが、あの一、カゲロウに進化した。

はやと 進化？ポケモンじゃねえ。

亀山T 毛むくじらはどこから来たんですか？

ななみ 空から。

かずお 違う。空からじゃない。地下、地下。

りな あっ、死ぬとき落ちてきた。

ななみ あられ。

亀山T わかるようにちゃんとやって。

りな え？あられから生まれたんですか？

ななみ あられが降ってきた。

ゆり あられが降ってきて、水の世界に、えーっと、沈もうっていうか、そういうことになったけど、えーっと、浮いた。

りな 沈んだんだよ。

ゆり 沈まなかった。

ひろき えっ？

C わかんない。

すず わからん。

りな え、沈んだって言ってた。

小林Ｔ どこに？沈んでどうなったの？

りな 沈んでー、えっと、土の中に入った。

亀山Ｔ あられて何？

りな 水のかたまり

ゆり わかんない

ひろき お菓子。

ななみ あられ、毛むくじやら、かげろう。

亀山Ｔ ちゃんとながつてゐるんだ。だから

あらは何？

ななみ (首を横に振る)

りな 卵。卵。かげろうの卵。

すず あられの卵だ。

小林Ｔ ちよつと待って。みんな自分の考え

を丁寧に言っ。土の中に埋まっているの

は何って言ったの。

わかな あられの、なんか、かげろうの卵。

小林Ｔ かげろうの卵が？

わかな 孵化したのかな？

小林Ｔ 孵化したのはいつ？六本足が生えた

ところ？それとも皮剥いだところ？

りな わかんない。

亀山Ｔ 卵から生まれたってこと？

ここだね。(板書を示しながら)

小林Ｔ そこが「生まれた」ときだね。

ななみさんに聞こうかな。

(板書「生命が終わった」を示して)

ここが、命が途切れたところだったで
しょ。こっちは(板書「かげろうの卵」を

示して)なんて言ったらいいですか？

ななみ 生まれた。

ゆり 生命が生まれる。

ななみ 始まる。

亀山Ｔ こは生命の始まり。こっちは？

ゆり 終わり。

亀山Ｔ じゃあ、あんた達の心に一番多く

残ったこは何？

C 続き。

C 途中。

C 最後。

C 力尽きました。

亀山Ｔ 力尽きましたは終わりじゃないの？

かげろうの生命が終わったこは、なんて

言ったらいいの？

ゆり 生命の途中。

すず 生命の中間。

(しばらく子ども同志で話し合う。)

亀山Ｔ じゃあ、かずおさん。

かずお 千日の始まったと、終わったの間に

あるから、途中だと思えます。

中川Ｔ なんの途中にしますか？

かずお えーっと、成長している途中。

ななみ 成長過程。

ひろき 三年経って、毛むくじやらがかげろ

うになりました。

亀山Ｔ ということで、かげろうは死にまし
た。物語は終わりました。

C 終わりました。

亀山Ｔ 本当にこれで終わったんだね。

りな はい。終わった。

C多数 終わった。終わった。終わった。

(しばらく子ども同志で話し合う。)

かずお 終わったの？

ちなつ 終わった、終わった、終わった。

かずお 理由はなんだよ。

ちなつ 子孫は残らない。

かずお なんで？

ちなつ 一匹しかない。

かずお 今かげろう、この世に一匹しかない
いのかよ。

亀山Ｔ 話し合い終わり。わかなさん言っ

てください。

わかな えっと、私は、かげろうが死んだの

に、絶滅したのに、なんで生まれるのか

がよくわからない。

亀山Ｔ 絶滅したの？

わかな 絶滅っていうか。

りな 生まれなかった。

卵を産まなかったのに生まれたの？

ちなつ 生命が始まったときに降ってきて、

それでその一生を送って、それで雪の中に

埋まって、分かんないけど、雪があられに

なって、また同じことを繰り返した。

小林Ｔ また同じことを繰り返すのね。
亀山Ｔ ここで終わったでしょ。(板書を示し

ながら)それから、これがまたあられに
なつてどこに行くの?

小林T あられが土の中に沈む?
ちなつ これ?(板書を指差す。)

亀山T そしてどうなつていくの?

ちなつ また同じ。

亀山T それを、指でずっと続けてやつてみ
な。

ちなつ えー。

小林T 成長して、ずっと死ぬとこまでいつ
て、そして?

ちなつ こつち。

小林T そして、また進んで進んで。また
戻つて。そしてまた進んで進んで。ちなつ
さん、話し合いをしている時に、手で、ぐ
るぐるつて、円を描いてたんだよ。

すず りなさんが食物連鎖つて言つてた。
りな しょうさんは、動物連鎖つて。

ゆり また生きて。生きて死んでまた生き
て。

亀山T 詳しく言つてください。

ゆり 生きて、あられ降つて、土の中で、ま
た死んで、その繰り返し。生きて死んでま
た生きて、その繰り返し。

亀山T つていうことは、これは終わりじゃ
ないつてこと?

C これがずっと続く。

亀山T 話し合いの前は、終わりがあつて

言つてたよね。

C えっ?

亀山T さつきは何が終わったつて言つたん
だと思う?

かづお かげろう。

C かげろう一匹しかないもん。

ちなつ だつて、かげろうその時しかない
じゃん。あられが降つてきたのは、一個か
もしれないから。

しょう そうなの?

ちなつ 一匹しかないのと子孫残せないか
ら、終わったかもしれないつて。

小林T じゃあ、途切れたのは、一匹の命つ
てことでもいいの?

ちなつ うん。

小林T みんなが言つてきたことを整理する
とね、一匹の命は途切れている。けれどか
げろうの命は繰り返し返されているということ
ね。

亀山T ここで死んじゃったかげろうは終
わつた。だけど終わつてない。

りな あーっ。そういうことか。

小林T かげろう絶滅してないからね。

亀山T あられは一個じゃないよね。ここの
あられはいっぱいだよね。いっぱいだけ
ど、その卵から成長したかげろうの命はこ
こで終わった。だけど終わつてない。

りな 分かつた。

亀山T では、次に進みます。

(ワークシート配布。)

この物語の続きを、それぞれで書いてくだ
さい。

C えーなんでー。

C 分かんないー。

小林T この物語の続きだから、おとぎ話み
たいに書いてね。

(各自、書き始める。十二分後)

亀山T 今から呼ばれた人は今書いた物語を
読んでください。最初はゆりさん。

ゆり 生命が終わつていてもかげろうは、し
そんは、残しており、またその卵がうま
れ、千日経ち、またかげろうはきれいに上
へ下へと行き雪のように消え死んでいく。
けどまだ終わつてはいない。また卵がうま
れ、たくさんかげろうが、水の世界を旅し
てゆく。きれいに楽しくおどるのを楽しみ
にしています。季節は、冬になり、かげろ
うがおどり死んでまた春になり、水の世界
はかがやいている。

亀山T おー。

C (拍手)

亀山T はい、ひろき君が発表するよ。

ひろき でも、風にとばされ、雪のようなか
げろうの死体が消えました。何日かたつた
日、また、水の世界にあられが入つてき
て、土の底にしみましました。そして、また

毛むくじやらの六本足のかい物が現れました。そして、三年の月日が流れ、毛むくじやらのかい物が陸に上がりかげろうになりました。そしてふぶきの時に、かげろうが空にまいおどりしました。そして、太陽がしずんで、かげろうが陸に落ちました。そして、その後そのくり返しになりました。

C (拍手)

ちなつ 全然違う。

亀山T 全然違うからいいんだよ。

ちなつ でも、けして、かげろうがいなくなつたわけではありません。きれいなかげろうが死んでしまっただけです。かげろうの一生を、かげろうたちがくり返していく限り、かげろうは生きていくのです。三年とはとても長いですが、生きていくためには、なにも長く感じないのです。いつか、毛むくじやらも、かいぶつと言われなくなる時がきて、あられが落ちてこなくても、生きてる時がくることを、かげろうたちは思っているのです。

C (拍手)

亀山T じゃあ、かずおさん。次にあやさん。

かずお そして、月日が経ち、また、あられが降ってきて、同じように水の底にあられが落ちてきて沈みました。その後に海の中に(川の中?)毛むくじやらの生き物が何

びきもいて、三年後、水の世界から土の世界に、きれいなかげろうの吹雪がみられました。土の世界と水の世界両方の生き物は、それを楽しみにしていました。

でも、そのたびに、かげろうが死に、また新しい命が誕生しました。他の生き物は、楽しんでいたけれど、かげろうは、食べ物が少なくやせ細っていて、とても気の毒でした。かげろうは泣きたくても泣けないのです。

C (拍手)

あや 次の年、また、水の世界にあられが降りました。そのあられも、土の中に沈みました。その土から、毛むくじやらの六本足の小さい物が生まれ、三年後、毛むくじやら達は、いっせいに陸に上がり、皮をぬぎ、いつかの年のように、美しいかげろうが姿を現し、かげろう達がきれいにおどり始めました。

これからまたいつか、かげろう達がおどる姿を何度か見ることになるでしょう。

C (拍手)

亀山 今日五人の人に読んでもらったんだけど、後日全員に読んでもらいます。みんなとっても良かったよ。

おとぎ話のように語られた「かげろうの乱舞」に、命の奇跡を感じることは易しかった

が、そこから、時間軸を伸ばし、「かげろうの一生」へ。さらに、過去、現在、未来へとつながる「命の連続」「命の循環に気付くことは難しかった。

「かげろうの死」について話し合う中で、やっと、一つ目の奇跡に気付くことができた。「細かい細かいあられ」が「かげろうの卵」だということが分かったところで、「終わりは終わり」ではなく、「終わりは始まり」だと、構えを転換することができた。そして、この構えができた後の子ども達は、あつという間におとぎ話を作ることができた。

話し合いの中で、子ども達が手をぐるぐると回しながら考えていたところも見逃せない。一個の命を一つの円とすると、命の連続はらせん形で表すのが自然である。子ども達は、言葉と身体で考えていた。

〈三つ目の奇跡〉

亀山T では次に進みます。実は、この物語には続きがありました。

りな あるんじゃないですか。

亀山T あるんだけどね。みんなが作ったのと違うかもしれないけど、よく聴いてください。文章もプリントしたので配ります。

(川岸には、雪がふったように、かげろうが落ちていました。)の次、「でも、悲しまなくてもいいんですよ。」から最後まで朗

読を聴く。）

亀山 T 第一の奇跡はなんでしたか？

C あれが降ったこと

亀山 T おー、よく覚えてたね。じゃあ第二の奇跡は？

りな かげろうが生まれた。

亀山 T 毛むくじらのこと

りな 皮が剥がれた。

C 皮が、脱皮。

りな あ、踊った。

C 違う、踊ったのは三つ目だよ。

亀山 T 踊ったのが三つ目の奇跡？

C 違う。

りな なみ 三つ目は今のでしょ。

亀山 T みんなに配ったプリントの中にも書かれてたよね。

C 一番肝心な？

亀山 T そうそう、一番肝心だね。じゃあ、この三つ目の奇跡っていうのは、なんですか？

かずお 喜び。

亀山 T 話し合っているよ。

(話し合いを始めるが、今までより静か)

亀山 T ななみさん。第三の奇跡ってなに？

りな なみ 多分、えっと、かげろうが死ん

じゃって、また新しい命が生まれるから悲しむ必要はないっていうか、また新しい命

が生まれることが奇跡。

ゆり 一緒。

亀山 T 今言おうとしたことを言ってみな。

たける はい。えーっと、かげろうが、また

新しい命が生まれると、えーっと、喜びが

終わらない。

さちこ それも含めて奇跡。

亀山 T 今、まわって歩いて話し合いを聞いて

たら、「この世に喜びは決してなくならない

のです。」というのが、三つ目の奇跡で

すって言った人が多かったんだけど、「この

世に喜びは決してなくならない」っていう

ことを、もうちょっと説明してほしい。

(しばらく沈黙が続く。)

亀山 T ひろきさんどうぞ

ひろき えーっと多分。楽しいやうらしい、

そういう感情は消えない。もしかしたら悲

しいことはあるけど、そういう感情はな

らない。

ちなつ いいと思います。

しょう かげろうが死んでも、また生まれる

から悲しくない。だから、まあ悲しむこと

はないし、喜びはなくならない。

宮田 T ひろき君。さっき悲しみの感情って

言ってくれたでしょ。で、悲しみの感情は

あるの、ないの？

ひろき ある。

宮田 T あるのね。で、そのあと喜びになっ

ちゃうと思う？

ひろき 喜びに変わる。

宮田 T それ、自分だったらできる？

ひろき わかんない。

宮田 T あんまり考えたことないかもしれない

けど、そういうことってあり得ると思

う？死んで悲しいっていうことがよろこび

に変わることが、自分の中で実際に起こ

かどうか。

ひろき うーん。

なる。けんかして、仲直りして遊ぶと楽し

い。楽しいっていうのに変わるじゃないで

すか。好きに。

宮田 T 好きになれるような気がする。

ひろき はい。

かずお かげろう喜んでんの？死んでんで

しょ？

宮田 T かずおくんは、かげろうが死んで悲

しいと思っているんですよ。

かずお うん。

宮田 T それがどうして喜びになるんでしょ

う？そのことが奇跡だって言ってるんで

しょう？かずおくんは、かげろうは、死

んで悲しんでるに決まってるじゃんって、

思ったんですよ

かずお (頷く) いくらまた生まれるといっ

ても、まあ死ぬのはそれなりに嫌なんじゃ

ないですか？

亀山T また卵が産まれたところが第三の奇跡なの？

C ん？

C ん？

ゆり そう。

りな 違う。

亀山T どっち？それなら、文章も「不思議なあらが降りました。」の次に「これが第三の奇跡なのです。」と書いてあるんじゃないですか？

さちこ 秘密にしたいんじゃない？

ななみ 踊るところが、一回は見れなくても、また見れるっていうのが。

亀山T 繰り返してきているというところが第三の奇跡？かげろうの、あらが落ちて、毛むくじやらになって、美しくなつて、死に、また産まれっていう繰り返しが奇跡なのですか？

りな 違う。

さちこ えっと、かげろう自身がうれしいことは、仲間が増えたりすることがうれしいこと。

小林T その仲間っていうのは、今、いっしょに生きている仲間？それとも時代を超えた仲間？

ゆり えっと、これからもし死んでも、また陸の、あゝ、水の底の土の中から産まれて、またいくから。その死んだかげろうか

ら、また違う命が始まるから。だから仲間が増える。

小林T その仲間って、今一緒にいる仲間でもあるし、先祖でもあるし、未来の仲間でもあるの？

さちこ 未来の仲間。

亀山T 死んだかげろうから卵が産まれたというのが第三の奇跡ではないんだよね。生まれて死んで、また生まれて何度も何度も繰り返される。かずおさんは、死を悲しまないわけじゃないと言ってくれたね。それはそうかもしれない。だけど、死ぬ必要があったんだよね。ここで。

りな 仲間を作るため。

亀山T その何度も何度も何度も繰り返されることか

C 第三の奇跡。

亀山T 喜びが決してなくなるらない。この世にだよ。でっかいな、スケールが。この世に喜びはなくなるらない。

ゆり なるほど。

瀬底T このらせんが、こっちに（未来の方向に）つながっているっていうことね。

ゆり くるくる。くるくる。

りな もっともつと行くの。

授業の中で子ども達を書いた「物語のつづき」を読み返してみた。（五名分は授業記録

の中で発表してある。）十六名中十五名が各自かげろうの死の先を書いている。そして十五名中九名は「生命の連続」「生命の循環」が読みとれる内容だった。これは授業の中で「終わりは始まり」と理解した成果と考えられる。しかし、本文を読み進めた後に「三つ目の奇跡」について問われた子ども達は困惑した。今回、授業開始から実によく話し合い、発言していた子ども達の口が重くなった。

今を実感しつつ生きている十一、十二歳の子ども達にとって、目の前に見えている現実の縛りを解き、過去、現在、未来へと伸びる時間軸上で自由に思いを広げることは、それほど簡単ではなかった。

〈未来へ〉

亀山T はーい。かげろうの一生が繰り返されていくこと。こういうことって、みんなの生活の中にないですか？

ななみ リサイクル。

亀山T 他には？

ちなつ 水の循環。

亀山T 自分の経験として、生まれて死んで、生まれて死んでを繰り返すような経験はありませんか？

ゆり ない。

宮田T もしかかげろうじゃなくて、人間にた

とえたら、君たちは、あのぐるぐるのらせん形の中の、どこにいるのかな？

ひろき 下の方。

しょう 最後のところでしょう。

りな 最後じゃないでしょ。まだある。

宮田 T 今ね。すごく面白いこと言ってるんだよ。りなあさん、もう一度言つて？

りな 最後じゃなくてまだあるんですよ。

宮田 T そうそう、そこが面白いと思う。みんなにとっては最後だよ。だってみんなは誰も産んでないもんね。

りな ああ、そっか。

宮田 T みんなまだ親になつてないもんね。だからみんなは、ぐるぐるの流れの中の先頭に、先頭というか、一番下にいるんだよ。でも、りなさんは、一番下じゃないでしよって思つた訳だよ。

りな あー、はいはいはい。大人になつて、子ども産んだら。

亀山 T 将来はつながっていくつてこと？

瀬底 T じゃあ、始まりがあつて、かげろうの場合には死んじゃうんだけど、これが終わりと思つたら、終わりからまた始まりにつながるつていうことでもいいかな？そういうことつて、みんなの経験の中でないかなあ？

あや 一ついいですか？

亀山 言つてみな。

あや えっと、花？一つの種から、枯れれば

いくつも種が。

小林 T 種ねえ。

亀山 T たけるさん。野球は卒団したら終わりですか？

たける いや、中学校とかで。

亀山 T また始まるんですか？ゆりさん、習字はもう小学校で終わつたら終わりですか？

ゆり いや、違います。また、始まる。

ななみ 勉強。

亀山 T 勉強！すごいね。勉強が終わるけど、また始まるんだ。

小林 T 身近な生活でいっぱいあると思うんだけどね。今十二月でしょ。

C あ！あ！

りな 年明けだ、年明け。

亀山 T 今年が終わると思つたら、また？

りな 始まる。

亀山 T りなさん。小学校を卒業したら？なにがあるの？

りな 中学校。

亀山 T が始まる。中学校を卒業したら？

りな 高校が始まるか、バイトが始まる。

亀山 T それが終わつたらどうなる？

りな ニートか？

亀山 T 高校に進学したとしたらどうなる？

りな 大学

亀山 T を卒業したら何？

さちこ 社会人。

りな 終わらない。

亀山 T 就職したら終わりなんだ。

C 老後。

亀山 T ということは、みんなの人生の中では、これはずっと続いているということだ。

りな だけど、死んじゃつたら終わりでしょ？

亀山 T 死んじゃつたら終わりじゃないじゃ。

りな そうだ！子どもがいるんだ。

宮田 T もう一つ聞かせてほしいんだけど、今のね、仲間だけじゃなくて、ずっと先の仲間、会わない仲間もいるつて話してたでしょ？自分たちが生きている間には会わない仲間。かげろうだったら、次に出てくる毛むくじやらには会わないんだよ。このらせんのぐるぐるの、みんなは、今、一番下にいるんだよ。それより上の方のぐるぐるには、もう何十年も百年以上も前の人達がいるわけだ。そういう人達にとつて、みんなはどういう存在なんだろう。

りな 未来人。

宮田 T 未来人。その未来人（みんな）と過去の人はどうつながっているんだろう。それをね、かげろうのさっきの話とつなげてみると、もつとなんかいるんことが見えてくると思う。考えといてください。

亀山 T じゃあ、終わりにします。

C 全員 終わりました。

5. 生命の奇跡

三つ目の奇跡についての反応は最後まであ
いまいだった。理解はできても共感はできな
いというところだろうか?「終わりは始まり」
「自分たちの仲間(同世代)は終わってもま
た次の仲間がいる」と言うことはできても
「かげろうはやせ細っていて気の毒」「泣きた
くても泣けない」「死ぬことは悲しい」とい
う実感は消えなかった。

千日のあいだ、冬が三度すぎ、夏が三
度すぎるあいだ、小かいぶつは、一度も
日の光を見ないで、水の底にじっとして
います。

けれども、みごとに晴れわたった日が
来て、小かいぶつたちは、岸へうかび上
がり、毛むくじやらの皮をぬぎ、美しい
かげろうに生まれ変わり、空にまい上
がって、おどます。

こうして、お話は、ほんとうのことに
なります。

ですから、この世に喜びは、決してな
くならないのです。

そして、これこそ、三つめの、そして、
いちばんかんじんなきせきなのです。

と、本文は終わっている。二つ目の奇跡に
ついて、多くの子ども達は、かげろうの美し
い乱舞を語ったが、その時死の悲しみは切り
離されていなかった。悲しみを包み込む喜び
として三つ目の奇跡を体感するところには到
らなかった。作者ビアンキが「おとぎ話と
も、ほんとうのことともつかないお話」とし
ているところに鍵があるのではないか?この
教材を使った授業作りに再挑戦したいと思っ
ている。今回がそうであったように、亀山会
員からは今まで何度も依頼を受け研究授業を
行ってきた。

「湯ヶ島小の子らは、日々、詩碑の詩を読
んだり、外に出れば杉が立っているんだし、
校舎の中には井上靖の資料館があるし、いつ
も、しろばんばの「耕作」っていう少年が身
近にいわけよ。だから、八十代のおじいさん
と十代の少年が時空を超えて、体感を共有し
合うことは難しくなかったと思うんですよ
ね。」と、亀山会員は語った。恵まれた環境
の中で、日々生活している子ども達の体内に
育っている感性。その感性を、無意識の層か
ら引き上げて、意識化させたいという願い
は、どの会員にも共通している。上原先生が
亡くなってから二十年の間、子どものイメー
ジ運動にかかわる授業研究を重ねてきたの
は、子ども達の感性に出会うことが大きな喜
びだったからである。我々は授業をするたび

に子ども達の体内には、豊かな感性が育まれ
ていることを実感してきた。

そして、それは、大人に教えられる以前か
ら育っているのだということを確信してい
る。

今回の授業で悲しみの感情が喜びに変わる
という経験を語ってくれた子がいた。「けん
かして、仲直りして遊ぶと楽しい。楽しいっ
ていうのに変わる。好きに……。」ささやか
ではあるが、悲しみを包み込む喜びといえる
だろう。挫折感を味わうようなことがあつて
もそこに沈み込むのではなく、「まだ先があ
る」と、未来に向けて一歩踏み出せる力が
育っていると思いたい。

(八王子市立由井第一小学校教諭)

公開研究授業

平成二十四年十二月二十七日木曜日

伊豆市立湯ヶ島小学校

六年 亀山貴洋子学級

男子六名 女子十名 計十六名